慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	杉浦, 章介(Sugiura, Noriyuki)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2003
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.特別号『将来編』 (2003.)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	創設50周年記念特別紀要
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-000S2003-0062

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

社会学研究科開設50周年を翌年に控えた2000年春，研究科委員会において開設50周年を記念する事業を行うこと，そしてその計画実行を行う母体として記念事業準備委員会を設けることが決められた。これを受けて上記準備委員会は，社会学研究科のこれまでの歩みを記録として残すこと（『歴史篇』），ならびに研究科を含む大学院のこれからのあり方を考える機会を設け，関連する議論を呼び起こすこと（『将来篇』）をそれぞれ目的とする2冊の紀要特別号を公刊することとし，後者の刊行のために開設50周年にあたる2001年の適当な時期に，記念式典と並んで『21世紀の大学院』と題する記念シンポジウムを開催することとした。本紀要は，これらの内，『将来篇』にあたるものである。

2001年4月14日（土）午後零時三十分より慶應義塾三田キャンパス北館ホールにおいて，「大学院における知のあり方，知の創造と伝承のあり方」をサブタイトルとする記念シンポジウム『21世紀の大学院』が開催された。当日は，第1部記念式典において青池愼一社会学研究科委員長（当時）の式辞，鳥居泰彦塾長（当時）の祝辞，薬師寺泰蔵常任理事（当時）の祝辞ならびに鈴木孝夫名誉教授（元社会学研究科委員長）による記念講演が行われた。その後，第2部記念シンポジウムが開かれ，ゲスト・スピーカーとして，佐々木　力氏（東京大学），寺崎昌男氏（東京大学名誉教授，桜美林大学），宮島　喬氏（立教大学）の3氏がそれぞれのご専門の立場から21世紀の大学院についての基調報告をされた。引き続き3人の基調報告者の先生方をパネリストとして，シンポジウムに参加された聴衆の方々との質疑応答を交えて大学および大学院の現状と将来についてのパネル討論を行った。その内容は，本紀要特別号の第1部に収録されている。

本紀要第2部は，当社会学研究科の教育と研究にこれまでに深い関わりをお持ちになる方々や本研究科で教育を受けた方々の中から，5名の先生方を選び，依頼原稿の形で，それぞれのご経験とご専門の立場から「大学院論」を展開していただいたものである。また，原稿をご依頼いたしましたものの，ご多忙のため紙上でのご参加が叶わなかった場合もあったことを付記するものである。

シンポジウム開催より2年余の時間が経過し，ようやく公刊にこぎつけることができたが，この間，ご多忙にも拘らず原稿の校正に多くの時間を費やしてくださった先生方に対し心より御礼を申し上げる次第である。併せて，公刊の遅くなったことは偏に編者の不首尾に帰するものであることをお詫びする。しかしながら，この2年余の間にも大学と大学院を巡る制度や環境の変化には著しいものがある。21世紀COEプログラムの採択は既に始まっており，また次年度にはプロフェッショナル・スクールにおける実務教育の本格化を目指す法科大学院制度がスタートする予定であるし，国公立大学独立行政法人化は，制度としての大学・大学院のあり方を抜本的に改変するものと予想されている。こうした背景と文脈の中で本紀要に掲載されている議論の内容を読み返すとその内容が実に多くの示唆と洞察に溢れているものであることに気付かされるのは編者一人に限られるものではないものと確信している。最後に本企画の実行に際して一貫して協力を惜しまれなかった，準備委員会委員の青池愼一教授，坂上貴之教授に対しまして，文末ながら，深甚の謝意を表するものである。

社会学研究科開設50周年記念事業準備委員会委員長　杉浦章介